



平成22年11月11日

各 位

会社名 東海染工株式会社
代表者名 取締役社長 八代 芳明
コード番号 3577 東証・名証第1部
問合せ先 取締役管理部長 津坂 明男
(TEL 052-581-8141)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成22年5月10日に公表しました平成23年3月期通期（平成22年4月1日～平成23年3月31日）の業績予想（連結・個別）を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成23年3月期通期 連結業績予想数値の修正（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	15,300	360	180	700	20.18
今回修正予想(B)	14,650	110	10	710	20.48
増減額(B-A)	△650	△250	△170	10	—
増減率	△4.2%	△69.4%	△94.4%	1.4%	—
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	15,288	△361	△438	△864	△24.91

2. 平成23年3月期通期 個別業績予想数値の修正（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,800	90	30	720	20.76
今回修正予想(B)	10,750	△130	△150	710	20.48
増減額(B-A)	△50	△220	△180	△10	—
増減率	△0.5%	—%	—%	△1.4%	—
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	10,785	△661	△734	△1,011	△29.17

3. 修正の理由

(連結業績) 海外経済の減速や急激な円高の進展などにより、景気の先行きが極めて不透明な状況におきまして、当社グループを取巻く経営環境は引き続き厳しい状況にて推移すると予想されます。このような厳しい環境下、第3四半期以降におきましては、国内染色加工事業にて、織物加工事業統合による生産効率の向上と原価低減効果が、生産性やエネルギー効率面を中心に全面的に見込まれるほか、磐田事業所の新設効果も大きく収益改善に貢献する見込みです。

また海外繊維事業におきましては、インドネシア子会社及びタイ子会社が、中国製品との差別化を図るために構築した生産設備体制や、商社や現地紡績・織布会社との協同体制を背景に、日本向けビジネスを更に拡大させる一方で、旺盛な内需を追い風にローカル向けの受注も好調に推移すると予想されます。とりわけ、インドネシアにおけるオペレーションに関しては、当期中に、現地デザイン会社の設立により、インドネシア子会社のローカル向け受注体制の更なる強化を進めるほか、現地に合弁で検品会社を設立するなど、現地に染色加工場を持つ当社グループの強みを活かし、他社に先駆けてインドネシアにおける縫製品の一貫生産体制を構築し、製品販売ビジネス拡大の足場固めをも進めて参ります。

以上の取り組みにより、下半期は大幅な業績改善を達成し、通期におきましては、営業利益、経常利益、当期純利益とも3期ぶりに黒字回復を達成する見込みであります。しかし、誠に遺憾ながら、海外子会社の売上高が、円貨への為替換算の影響により当初想定を下回る見込みのため、連結売上高を上記の通り修正することに加えて、各利益におきましては、第2四半期までの実績を踏まえて検討した結果、期初に想定した利益までには至らず、上記の通り、営業利益、経常利益、当期純利益の予想を修正いたします。

(個別業績) 個別業績につきましても、連結業績の修正理由と同様に第2四半期までの実績を踏まえて検討した結果、各利益は期初に想定した利益には至らず、修正いたします。

以上の理由により、平成23年3月期通期の連結業績予想及び個別業績予想を上記の通り修正いたします。

(ご注意) 上記に記載した予想数値は、現時点での入手可能な状況に基づき判断した見通しであり、今後、様々な変動要因により、実際の業績が上記数値と異なる可能性があります。

以 上